

土木学会平成23年度全国大会の概要について

平成23年9月7日(水)～9日(金)の3日間、愛媛県松山市において開催した、土木学会平成23年度全国大会(四国)に多数のご参加をいただきまして、ありがとうございました。大会状況の概要を、以下のとおりご報告します。

記

1. 日 時 平成23年9月7日(水)～9日(金)
2. 場 所 第66回年次学術講演会、研究討論会ほか：愛媛大学城北キャンパス
東日本大震災シンポジウム：松山市民会館
土木コレクション2011：松山空港ターミナルビル(2階出発ゲート横)
3. 参加者数 21,258人(3日間の延べ人数)

4. 主な行事の概要

多くの関係機関のご協力のもと、土木学会・平成23年度・全国大会四国大会を滞りなく実施することができました。

今大会は、「今一度、土木の原点に～誇れる日本、住みよいまちへ～」を大会テーマに掲げ、第66回年次学術講演会や研究討論会、そして3月11日に発生しました「東北地方太平洋沖地震」に関わる特別行事として東日本大震災シンポジウムを開催いたしました。また、愛媛大学・愛大ミュージアムにおいて、広く市民の方へむけた、四国の防災と東日本大震災に関するパネル展示を行い、松山空港ターミナルビルにおきましては、土木コレクション2011を開催し、土木界が所蔵する貴重な資料、図面などの公開展示を行いました。

① 東日本大震災シンポジウム 基調講演会

会長講演

「東日本大震災の教訓と社会安全システム—土木の原点を考えた行動計画を—」と題して、土木学会会長 山本卓朗が講演を行いました。

大震災はさまざまな新しい課題を私たちに与えました。今後予測される巨大地震に土木技術者はどう立ち向かうのかが問われています。しかし、高度成長時代からものづくりに邁進してきた土木と市民感覚にいつしか「ずれ」が生じ、土木への信頼が薄らいできています。これからの土木技術者の行動が信頼感を持って受け止められるよう、土木の原点を見つめ、市民工学への回帰を目指さねばなりません。大震災が土木技術者に与えた強烈なメッセージは、「国民の命を守れ」ということであります。この命題に応えるために、「土木安全哲学」の構築が提唱されました。

特別講演

「東日本大震災—初動期にどう対処したか—」と題して、徳山日出男 国土交通省東北地方整備局長にご講演をいただきました。

3月11日午後2時46分の発災以降、東北地方整備局の早期の復旧・復興へ向けての初動対応(発災→啓開→応急・緊急復旧→本復旧→復興、および自治体・被災者への支援)とその特徴・重要性が、局長の記録メモに基づき、ドキュメンタリー風に臨場感を持って語られました。また、この中で、防災・減災を考えると、普段から準備(シミュレーション、訓練)をしておくことの大切さも語られました。

② 東日本大震災シンポジウム パネルディスカッション

「巨大津波とどう向き合うか—東日本の経験+東海・東南海・南海地震に向けて—」と題して、コーディネータに家田 仁 東京大学教授、パネリストに河田恵昭 関西大学教授、尾崎正直 高知県知事、木山啓子 特定非営利活動法人(JEN)理事・事務局長、川崎正彦 国土交通省四国地方整備局長、佐藤慎司 東京大学教授、平野勝也 東北大学准教授、小野武彦 清水建設(株)代表取締役副社長をお招きし、東日本大震災をどうとらえるか、発災後の諸活動・震災復興をどう見るか、今後の地震・津波にどう備えるかについて、パネリスト

の考えをご披露いただき討議が行われました。この中で、大災害であっても悲惨な過去を忘れてしまうのが人の常であるが、人は忘れても社会システムとしては語り継がれてゆくこと、そうした安全システム作りが大切であることも提案されました。

③ 第66回年次学術講演会

全国の大学、研究所、国、地方自治体、民間企業の土木研究者、土木技術者を中心とし、構造、水理、土質・地盤、計画、コンクリート、建設マネジメント、環境・エネルギーに係る研究分野において研究講演が行われ、発表された研究成果、技術報告に対して活発な議論が行われました。

講演総題： 3, 173題

④ 研究討論会

「東日本大震災における土木構造物の被害と教訓」、「BCP（事業継続計画）を巡る課題と動向 ～安全・安心・安定な社会作りへのアプローチ～」、「次世代スパコンによる防災シミュレーションを目指して」等の26テーマが掲げられ、現在の鋼構造物・コンクリート構造物の耐震設計・耐震補強の有効性、災害から被災住民の生活を守るBCPのあり方、次世代スパコンを用いた地震津波防災の未来像などについて、活発な議論が行われました。

⑤ パネル展示

愛媛大学・愛大ミュージズにおいて、広く市民へむけて、四国地方の防災の現状と課題、東日本大震災の実態と初動対応、巨大地震・津波の特徴、防波堤の効果などについてのパネル展示を行いました。

松山空港ターミナルビル2階出発ゲート横において、土木の魅力、土木の範囲の広さや奥深さを市民の皆様に実感していただくため、「土木コレクション2011」と題し、吉野川橋、豊稔池堰堤、長浜大橋など四国の7つの歴史的な土木構造物の写真と設計製図（原図）、および最近話題となった町おこし、村おこし、地域おこしの3つのプロジェクトの紹介写真の展示を行いました。

⑥ 映画会

土木学会・土木技術映像委員会では、広島大会（2007年）・仙台大会（2008年）・福岡大会（2009年）・札幌大会（2010年）に引き続き、3日間連続で映画会を開催いたしました。研究討論会と連動して「災害記録映像で学ぶ防災技術教育その2—技術教育における映像メディアの効果 シリーズ4」をテーマに、東日本大震災の未曾有の被災を踏まえ、これまでに多数収集・評価された土木学会映画コンクール受賞作品や土木学会選定映像作品の中から、災害記録映像を中心に、19作品を上映いたしました。

⑦ 国際関連行事

海外6ヶ国・地域（米国、韓国、台湾、モンゴル、フィリピン、ネパール）の協定学協会および3ヶ国・地域（台湾、韓国、モンゴル）の土木学会海外分会から約30名の参加を得て、1日目には、「PPP（Public-Private Partnership）に関する方策およびガイドラインとプロジェクトの実施」をテーマに、ラウンドテーブルミーティング（円卓会議）が行われ、活発な討議がなされました。2日目には、世界工学団体連盟、日本工学会、アジア土木学協会連合協議会との共催による「東日本大震災報告会」が開催され、東日本大震災に関する調査内容について、地震・津波・地盤・コンクリート構造の各分野の専門家から英語による報告が行われました。

⑧ 百周年記念討論会

土木学会は、2014年に創立百周年を迎えます。100周年へむけて今後、土木が何をビジョンとし、何をすべきかを考えるため、100周年事業を2014年に向けて持続的に展開しております。今年は「市民工学への回帰」をテーマとし、二つの討論会を開

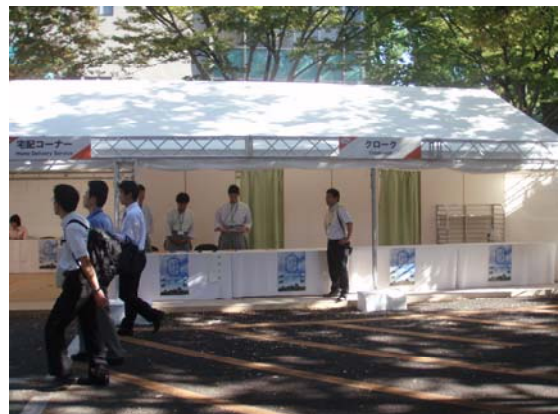
催しました。第一部では「100周年事業の理念と内容」、第二部では岡村 甫 元土木学会会長・中村良夫 東京工業大学名誉教授らをパネリストとして交え「市民工学への回帰～土木の総合性を考える」というテーマで活発な討論が行われました。パネリストの皆様から非常に貴重な話題をご提供いただき、百周年に向けて、単なる記念事業ではなく、総合性の観点から継続的な実践が重要であるとの認識を新たにした有意義な討論会となりました。

【参加者数（延べ人数）】

行事名		9/7(水)	9/8(木)	9/9(金)	計	備考
東日本大震災	基調講演会	—	1,720	—	1,720	
シンポジウム	パネル ディスカッション	—	1,350	—	1,350	
年次学術講演会		7,144	3,890	4,084	15,118	
研究討論会		1,126	—	644	1,770	
交流会		—	335	—	335	
パネル展示		170	147	119	436	
映画会		122	63	51	236	
国際関連行事		47	67	—	114	
百周年記念討論会		179	—	—	179	
計		8,788	7,572	4,898	21,258	

土木学会平成23年度全国大会 開催状況写真

【総合受付、インフォメーションサービス】



【大会本部】



【第66回 年次学術講演会】



【研究討論会】



【百周年記念討論会】



【東日本大震災シンポジウム(基調講演)】

松山市民会館にて

(実行委員長挨拶)



(会長講演)



(特別講演)



(会場状況)



【東日本大震災シンポジウム(パネルディスカッション)】



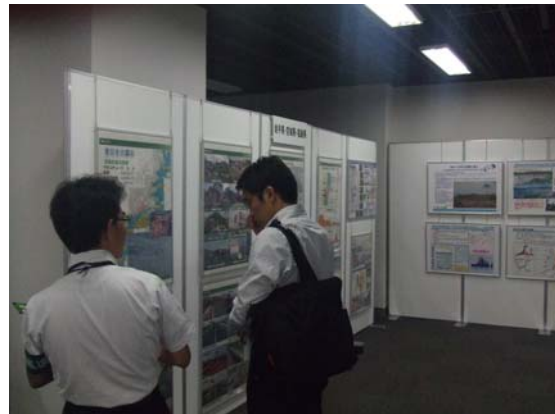
【東日本大震災シンポジウム】(ロビーにてパネル展示)



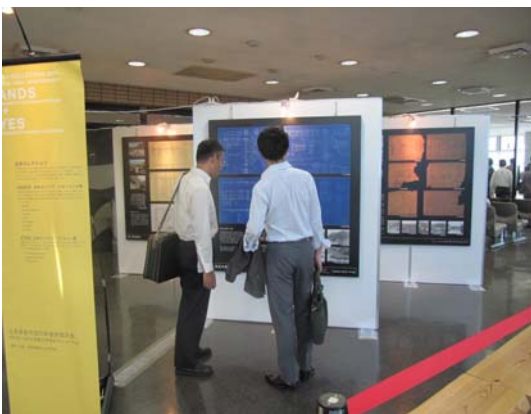
【アンサンブルシビルコンサート】



【全国大会パネル展示(愛大ミュージアムにて)】



【土木コレクション2011の展示(松山空港にて)】



【映画会】



【国際関連行事】



【交流会(松山全日空ホテルにて)】



【地元物産展の状況】



【愛媛大学城北キャンパスの会場状況】



会場案内看板(ココマーク)



【松山空港に設置された歓迎看板】



【シンポジウム会場へのバス移動状況】



【総括記者会見】



【道後温泉駅】

